

静岡岡幅地域は 駿河湾の北西岸に位置し同地域内には約40万の人口を擁する静岡市街 東海道の要衝宇津ノ谷峠 アルカリ玄武岩の枕状溶岩で有名な大崩海岸 景勝の地日本平を戴く有度丘陵等が含まれている。

本岡幅地域は 地体構造上 西南日本外帯とフォッサマグナとの交差会合部に当たり 糸魚川—静岡構造線（安倍川の扇状地堆積物によって被覆されている）が岡幅地域のほぼ中央を南北に縦断していると推定している。

本岡幅地域のほぼ中央に位置する静岡市の市街地は 安倍川扇状地の上に位置しており 扇状地性砂礫層の厚さは100m以上に達する。静岡平野内には谷津山及び八幡山の孤立丘陵が存在し これらの丘陵には砂岩と泥岩との有律互層からなる上部中新統静岡層群が分布している。

また 本岡幅地域南西部には 大井川の扇状地と朝比奈川沿いの低地からなる焼津平野が広がっており 焼津と藤枝の市街地が発達している。

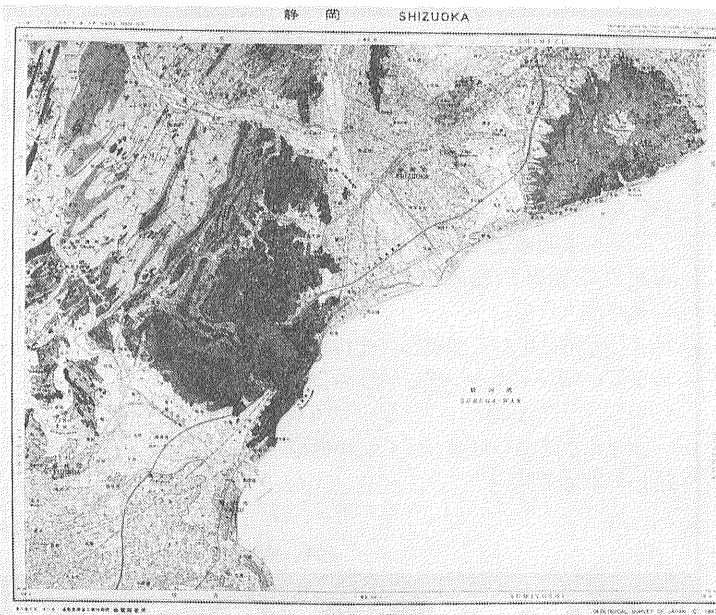
宇津ノ谷峠を含む本岡幅地域北西部の山地には 古第三系—最下部中新統の瀬戸川層群が分布している。同層群は 砂岩・頁岩・チャート・各種の石灰質岩・玄武岩溶岩等からなっており 北東—南西方向の褶曲軸を有する複雑な褶曲構造によって特徴づけられている。

本岡幅地域西端に位置する 藤枝市街北方の丘陵地域には 下部中新統の中部と推定される大井川層群が分布している。同層群は 主として 海底地すべりによって擾乱された砂岩泥岩互層からなっており 瀬戸川層群に由来した異地性岩塊（オリストリス）を含んでいる。

高草山周辺及び大崩海岸から賤機山に至る地域（静岡市街の西方）には 下部中新統の上部と確認された高草山層群が分布している。同層群は 島弧外縁部においては産出の稀なアルカリ火成岩類から構成されており 下部にデイサイト質岩類を伴う。本岡幅では 同層群の層序（噴出・貫入の順序）と岩石学的特徴（化学組成や変成度）とを有機的に結びつけて論述されている。

本岡幅地域の北東部に位置する有度丘陵には 更新世の砂礫層及び泥層が分布している。これらの更新統は 北東方向に伸長した一つの大きなドーム状構造を形作っており 同構造の南半分は海蝕により削り取られている。

静岡岡幅地域は 地震予知連絡会による東海地域の観測強化地域への格上げ(1974) 及び石橋克彦氏による駿河湾巨大地震説の提唱(1976)以来 我が国における地震活動及び地殻変動観測の最重要地域の一つとなっており 社会的にも注目を集めている地域である。このような最近の情勢に鑑み 静岡岡幅の研究報告書では 同岡幅地域周辺の地質構造発達史について詳細な解説を行うと共に 同地域における地震活動の特徴・地震と地質構造との関係・重力異常と地質構造との関連等についても言及している。



5万分の1地質図幅の新刊

静岡岡  
SHIZUOKA

5万分の1地質図幅  
地域地質研究報告

著者 杉山雄一 下川浩一 坂本 亨 秦 光男  
発行 工業技術院 地質調査所  
取扱先 東京地学協会 (03)261-0809 262-1401  
そのほか全国主要書店  
販売価格 1840円

地質ニュース	第336号	8月号
	定価 ¥540	千実費
昭和57年8月1日	発行	
編集	工業技術院 地質調査所	
発行人	林 久 雄	
発行人	株式会社 実業公報社	
印刷	東京都千代田区九段南4の2の12	
	Tel. (03)265-0951(代表)	
	振替口座 東京 32466	
総発売元	株式会社 実業公報社	
	出版事業部	